

りょうぜん
京都 霊山護国神社とは

幕末の動乱期に活躍した維新の志士たちを奉祀すべく、明治元年（1868年）5月10日に霊山官祭招魂社として全国で初めて創立された。昭和14年（1939年）に京都霊山護国神社と改称。境内には坂本竜馬、中岡慎太郎、桂小五郎を始めとする墓石、慰霊碑の他、従軍記念公園「昭和の社」がある。

【主な祭典】	歳旦祭	1月1～3日
	紀元祭	2月11日
	春季例大祭	4月28日
	みたま祭	8月13～16日
	秋季例大祭	10月14日
	龍馬祭	11月15日
	天長祭	12月23日

鳥取藩招魂社

鳥取藩招魂社は、明治3年（1870年）に鳥取藩知事の池田慶徳が、明治維新を目前にして亡くなった幕末殉難者11柱と慶応4年（1868年）に始まった戊辰戦争の殉難者76柱を祀るために創建したもの。戊辰戦争殉難者の中には、京都の山国隊士11柱も含まれている。

戦後に荒廃し、昭和36年（1961年）の第2室戸台風で崩壊したが、鳥取藩招魂社整備委員会によって昭和44年（1969年）に再建された。



鳥取藩招魂社

鳥取藩招魂社の
説明書



幕末殉難者11名には、天誅組の変や生野の変といった有名な事件に加わった者の他に、足利将軍の木像梟首事件といった事件にかかわった者も含まれている。

鳥取藩で幕末に起こった重大事件と言えば本圀寺事件であり、その殉難者も鳥取藩招魂社に祀られている。この事件は、文久3年（1863年）8月に藩内で幕府寄りの重役数名が、天皇を敬うべきだという尊王思想を持った若者約20名によって殺害されたというもの。これで藩論は尊王に傾くかと思われたが、直後に尊王の総本山ともいべき長州藩が孝明天皇の怒りを買って、京都から追放される八月十八日の政変が起こったことで、若者たちの思惑通りにはならず、謹慎の身となる。その後、若者たちは第2次長州征伐の際に藩を抜け出し長州藩に入ろうとしたが、その途中で彼らに暗殺された重役の遺族による仇討にあい、数人が亡くなった。鳥取藩の殉難者の名を追っていくと、奥田万次郎、太田権右衛門など本圀寺事件に関係した者の名が見られる。両名とも暗殺に加担した若者である。